

2022年度

一般選抜B日程

国語総合

(古文選択可・漢文を除く)

[60 分]

〔共通問題〕

〔一〕〈現代文〉次の文章は、近年さまざまな場面であらためて重視されている「対話」が本来どうあるべきかについて、対話という言葉から考えて論じたものである。これを読み、後の問いに答えなさい。

私たちはいろいろな場面で「対話を行っている」とか、「対話とはどんなものか知っています」と思っています。それは本当でしょうか。「対話」という言葉は、日常でそれほどピンパンに口にするものではなく、むしろ特殊な状況で用いられるようです。どんな場面で使われているか、いくつか例を挙げてみます。

たとえば、「米朝対話」といった政治交渉の場面が思い浮かびます。対話が必要となるのは、二国の関係が良好で円滑な場合とは正反対の状況ではないでしょうか。つまり、対立や緊張が高まり、現状を打開するため、あるいは戦争を回避するために、どうしても同じテーブルに着いて話し合う必要が生じた場合です。ニュースの写真では、ぎこちなく握手を交わす首脳の写真から始まり、大きなテーブルをハサんで向き合う高官たちの緊張した面持ちが印象的です。そのような時、同じ席に着いて対話を始めるのは非常に困難であり、また、席に着いて言葉^(イ)を交わしたからといって対話が成立したとは言えないこともしばしばです。「対話決裂」などという事態もあります。

国内でも、最近さかんに「市民対話」という表現が使われています。開発など新規事業について対立するグループが対話するようにお膳立てする企画などです。また、町づくりや行政サービスについて市民の意見が求められますが、多くは対話といっても **A** な意見陳述に終わり、一方的でなんの合意も理解も得られないことが多いようです。政治の場面では、「対話」という掛け声が高らかに叫ばれるにもかかわらず、空回りや白けた反応や否定的な評価を受けることが多いようです。そこでは、対話とシヨウする場を設定したことが、なにかの言い訳に用いられているように見受けられます。

小学校から高等学校までの教育現場でも、近年「対話」が重視されています。学習指導要領などでアクティブ・ラーニングは「主体的・対話的で深い学び」と規定されています。対話を授業に取り入れることで、主体的で効果的な学習が可能になると期待されているのです。従来の一方的な教育の限界を超えるため、興味深い試みであり、一定の成果もあるでしょう。他方で、教師と生徒の間にはたして対話が成り立っているのか、生徒同士の間で交わされるのが本来の対話か、疑問も残ります。授業の一環として推進される対話は、成績や内申書のために顔色を窺^(ニ)って交わす擬似的なもの、いわゆる忖度^(三)することかもしれないし、ルールを **A** に学ぶことは時にはかえって対話の本質をソコ^(四)なくも
しません。

概して現代社会で、若者の間では同調圧力が強く働き、場の空気にそぐわないことは語らない風潮があるようです。年配者の側でも、人の言

うことをよく聞かずに自分の考えを押し付けることが多いように見受けられます。私たちの社会では、対話はほとんど存在しないか、あるとしても形ばかりに見えます。では、通信機器の画面で吹き出しで行き交う言葉は、果たして対話と言えるのでしょうか。

家庭ではどうでしょう。家族のなかでは、毎日出来事を話したりする「会話」はあるかもしれませんが、一般的に言つて、男性同士、父と息子や兄弟同士は必要以上にあまり話はしません。身内や親友など普段から言葉を交わしている間柄には、対話という言葉は馴染みません。ですが、そういった言葉は「対話」とは呼ばれません。身内や親友など普段から言葉を交わしている間柄には、対話という言葉は馴染みません。

そう考えていくと、「対話する」という表現はかなり改まったもので、緊張や対立させたい（ホ）ように見えます。対話することに多くの人がなんらかの違和感を抱いているのも、そういった理由からではないでしょうか。

ここでさらに、「対話」という日本語について考えてみましょう。「話」がつく熟語はいくつかありますが、会話や談話や講話、ちょっと意外なところでは、電話や童話や神話や秘話などもあります。言うまでもなく言葉を「話す」という営みが、もう一つの要素と組み合わされて熟語ができていくわけです。

「対話」という熟語は、室町時代から用例がありますが、中国の白話文学で用いられていた単語が日本に入つて一般に使われるようになったと言われています。ですが、おそらく他の多くの日本語と同様、幕末明治から盛んに行われた西洋概念の翻訳作業で普及したものが今日の用法です。英語では「ダイアログ dialogue」で、カタカナでも使われますね。ドイツ語やフランス語などでも同様に使われる単語ですが、もとはギリシア語の「ディアロギス dialogos」に由来します。ちなみに、日本で最初に作られた哲学辞典である『哲学字彙』（一八八一年）では、λογος は「問答」と訳されています。

「ロギス logos」は「言葉」という意味で、「ディア dia」は「〜をつうじて」とか「〜の間で」という意味の接頭辞です。つまり、「人と人との間で交わされる言葉」というのが「ディアロギス」の意味です。それが日本語で「対話」と翻訳されて普及しているのです。「対話」という語になんとなく違和感を感じるのは、翻訳語のニュアンスが残っているからかもしれません。

熟語の成り立ちが分かったら、「対」という部分の意味も想像できます。「対」とは二つで一セットという意味です。言葉に関わる場面では、二人が面と向かつて言葉を交わす、対面して話すという意味になります。

「対」が付く熟語を見てみましょう。少し固い言葉ですが「絶対、相対」という反対語があります。どちらも明治期に東京大学の哲学教授・井上哲次郎が西洋語から翻訳したことで知られる日本語です。「相対」は relative の訳で、たしかにお互いに関係し合いながらという単語なので、「相対する」というのは適当な漢語です。興味深いのは「絶対」の方で、対応する英語は absolute です。「切り離されて」という意味ですが、「相対」の反対語として、「対を絶する、つまり、対にならない」という漢語となっているのです。他に並ぶものがない、孤立し自立している状態のことです。この語は井上が仏教用語にあった「絶待」を変えて用いたとも言われています。英語では語源の異なる二つの単語を、

「B」をつけて対にしたところがおしゃれですね。

他にも「対」を含んだ熟語はたくさんあります。「対策、対応、対案、対照」など、どの場合でもなにかと向き合っているという意味があるようです。そこでは二人、あるいはそれ以上が関わる関係があります。会話や談話や講話とどう違うかを考える上でも、この「対」という部分にこだわってみる価値がありそうです。

さらに、「対」という漢字がついた熟語で考えてみましょう。

まず、対話には「対等」という関係が前提されるのでしょうか。私は基本的にそうだと考えます。言葉を交わす二人の間で、一方が圧倒的に優位に立っていて、他方が応じる言葉を持たない場合、あるいは応じる自由や権利を持たない場合、対話が成立するとは考えられません。

たとえば、王様が臣下に、主人が奴隷に向かって話しかけ、言葉を交わす場合、見かけ上は二人の間にやりとりがあったとしても、内実は一方が伝えたことを他方が受け止めて実行するという命令に他なりません。そこには自由に言葉をやりとりすること、自分の考えを表明して伝えることが確保されていないからです。その場合「対話」とは言えないはずです。

言葉のやりとりはたんなる情報の伝達ではなく、意思を伝えることで相手になにかを促すことです。言葉はなんらかの力であり、それが強く働くとはラスメントになり、さらには暴力になるでしょう。素手や棍棒こんぼうで殴るように物理的に打撃を加えるのではありませんが、それ以上に大きな効果を発揮することがあります。権力者の一言が多大な犠牲を生むこともあれば、心ない言葉が刃やいばとなって人の心を破壊することもあります。

「対決」という言葉は、そのような力と力のぶつかり合いを示す表現です。ただ、それは単純に否定される関係でもありません。二人の間が真剣に対峙たいじすると、雌雄しゆうを決する場面が訪れます。そこでは決着が図られます。決闘はどちらかの死をもって終わります。対決としての対話は、そんな最終決着には至りませんが、なにかそのような方向が目指されています。

「対抗」と言うと、その二人がお互いに競い合って、なにかを目指したり、相手を凌しのごうと競争したりする状況です。対話には、たしかに相手との真剣勝負があり、駆け引きが求められます。それはたんに合意や妥協や承認といった帰結ではない、ライバルと向き合う相容あひまれなさが付きます。

それでは、対話に「対面」は必要でしょうか。対面とは、文字どおりには顔と顔が向かい合うことです。⁽²⁾日本人の文化は正面から向き合っている目を見て話すことが苦手で、礼を失するとも見なされますが、欧米などの文化ではそれが正しい話の仕方とされています。顔、とりわけ相手の目を見ながら話すことは必要でしょうか。なぜ、そこにこだわるのでしょうか。それは、話している相手の人格がまさに「顔」としてケンゲンするからです。

対話は顔を見なくても、たとえば電話越しでも文字をつうじたチャットでも可能だと思われるかもしれませんが、しかし、言葉が行き交うのは

人と人との間であり、それを支えるのは顔と顔です。対話が成立する基本場面は対面にあります。では、対面するとはどういうことでしょうか。一定の空間をハサんで、つまり空気をへだててその対岸で見つめ合うことです。二人の間にある空気はいわば川であり、あるいはクッションであり、交わされる言葉の間であり、息が通い合う場です。言葉が交わされるとは、そこで空気の振動を共に感じることに、その音響と雰囲気に包まれることです。

それでは、対話を交わす対面者は何者でしょうか。それぞれが一個の人間として独立した自由で知性的な主体です。それぞれがかけがえのない実存であり、言葉を語り自らと世界を了解するゲンソンザイ^(チ)です。ですが、その主体が二人、生の顔と顔を突き合わせて、目と目で見合いながら交わす言葉が対話なのです。それは、日常の当たり前風景ではなく、とても特別な事態であり、稀にしか実現しないことかもしれません。私たちが「対話する」ことになんとなく違和感をヌグえないのは、たんにこの言葉が翻訳語だからでも、西洋的な営みだからでもなく、私たち人間同士の間に横たわる溝、あるいは一人ひとりの人間存在の奥底にあるいわく言いがたい異質さからではないでしょうか。もう少し言うと、対話において私たちは途方もない深淵⁽³⁾を垣間見してしまうからかもしれません。

私たちが生活する社会で対話^(又)があまり存在しない、あるいは、特殊な場面で見られないのは、「対話」における「対」という基本^(又)がほとんど成立していないという原因によるように思われます。もし人と人の関係が「対」をなかなか許容しないのだとしたら、話し方のマナーやノウハウを学んでも対話は一向に上手くいかないこととなります。もっと根本的なもの、対話がどう可能であるかが、より真剣に考察されなければならぬようです。

(納富信留「対話の技法」による)

(注) 白話文学……中国で、口語体によって書かれた文学。

問一 傍線部(イ)～(ヌ)のカタカナに該当する漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は

1

 ～

10

。

(イ) ヒンパン

1

- ① 「ヒンすれば鈍する」を「衣食足りて礼節を知る」と換言する。
- ② カイヒンコウエンに家族で遊びに行く。
- ③ 事故でヒンシの重体となったが奇跡的に生還する。
- ④ ヒンピンたる自然災害に対しても冷静に対処する。
- ⑤ かつてゲイヒンカンだった場所をホテルに建て替える。

(ロ) ハサんで

2

- ① 浄土真宗のキヨウギが気になり、調べた。
- ② キヨウリヨウの私は、生徒からの批判に震えた。
- ③ 電子部品をキヨウジする装置を点検した。
- ④ 母校を訪ね、深いキヨウシュウに駆られた。
- ⑤ トンキヨウなことをしていたことに、後から気が付いた。

(ハ) ショウする

3

- ① 互いのアイショウを占い参考にする。
- ② 校歌がアイショウされて歴史に残る。
- ③ 故人を悼み声をあげてアイショウする。
- ④ ケイショウを略して呼び合う。
- ⑤ ケイショウの公園を訪ねる。

(ニ) ソコなう

4

- ① ソンザイシヨウメイを求める。
- ② ソンラクキョウドウタイが崩壊する。
- ③ ブツソンジコの認定を免れる。
- ④ シシソンソンまで語り継がれる。
- ⑤ コウガンフソンの態度を改める。

(ホ) ガンイ

5

- ① イフウドウドウと入場する。
- ② トウイソクミヨウに応じる。
- ③ キュウタイイゼンが過ぎる。
- ④ イクドウオンに賛成する。
- ⑤ イシンデンシンを期待する。

(ヘ) ケンゲン

6

- ① 老父母はケンザイだ。
- ② 問題がケンザイカする。
- ③ 海外にハケンされる。
- ④ 意図せずエツケン行為に及ぶ。
- ⑤ 国王へのエツケンが実現する。

(ト) ヘダてて

7

- ① 顔のリンカクがおぼろげに思い出される。
- ② シカクを減らすことで安全性を高める。
- ③ シカクとして新たな候補者が選挙区に送り込まれる。
- ④ 互いにイカクすることなく議論を続ける。
- ⑤ 相互のケンカクを明瞭に悟る。

(チ) ゲンソンザイ

8

- ① 記憶のゲンセンを探る。
- ② 武蔵野の過去をゲンシする。
- ③ ゲンチをとつて後の証拠とする。
- ④ ゲンシユクな態度で向き合う。
- ⑤ 再びゲンチを訪れる。

(リ) ヌグえない

9

- ① 放課後に校内をセイソウする。
- ② 思い出の食器をシヨクジヨウする。
- ③ 人材フツテイに助けられて採用される。
- ④ 絶縁体でヒフクされたケーブル。
- ⑤ 宇治シユウイ物語。

(ヌ) ケイキ

10

- ① キシカイセイの逆転劇。
- ② ゴキゲン伺いに参上する。
- ③ カツキをなす歴史的な変化。
- ④ キカイセンバンな事件を解決する。
- ⑤ シンシユツキボツな訪問者。

問二 傍線部(1)「特殊な状況」とはどういう状況か。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 11。

- ① 教育現場では、近年、国家の政策としてアクティブ・ラーニングが重視され、それが対話的な学びと呼ばれている状況。
- ② SNSの発達により、多様なコミュニケーションの在り方が可能になり、オンライン上で遠方の人々との対話が実現するようになった状況。
- ③ 人間関係が希薄になっていく一方で、男性同士よりも女性同士、特に母と娘や姉妹の間では緊密なコミュニケーションがみられる状況。
- ④ 町づくりなどの開発事業に際しては、事前に行政関係者と地域住民とが話し合いを重ねて、双方の意見を取り入れた合意形成のために多様な会合が開催されている状況。
- ⑤ 国家間の政治交渉においては、近年、グローバル化の一環としての異文化間コミュニケーションが重視され、一貫して平和的に進められるようになった状況。

問三 空欄 A には同じことばが入る。空欄に入れるのに最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 12。

- ① 消極的
- ② 学術的
- ③ 論争的
- ④ 感情的
- ⑤ 形式的
- ⑥ 儀礼的
- ⑦ 典型的

問四 空欄 B に入る最も適切なことばを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 13。

- ① 組
- ② 対
- ③ 点
- ④ 線
- ⑤ 日本語
- ⑥ 反対語
- ⑦ 慣用句

問五 傍線部(2)「日本人の文化は正面から向き合って目を見て話すことが苦手で、礼を失するとも見なされます」とあるのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 14。

- ① まずは手紙でアポイントメントを取るのが本来だから。
- ② どんな場合でも顔と顔を合わせるのが普遍的な礼儀であるから。
- ③ 不要不急であるにもかかわらず対面するのは状況が許さない。
- ④ 伏し目がちにコミュニケーションをとる文化があるので。
- ⑤ 対面する際には、ソーシャルディスタンスを守ることが礼儀なので。

問六 傍線部(3)「途方もない深淵を垣間見してしまう」ことによってもたらされる状況について説明した文として適切でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 15。

- ① 対話では、話者が互いに素になって向き合う必要性があるので、見たくもない本性を見ってしまう可能性がある。
- ② 対話では、時間内に結論を出さないといけないので、切羽詰まって深みにはまってしまう可能性がある。
- ③ 対話では、多様な意見の交換が前提となるので、どのような結論になるのか最後まで不明である可能性がある。
- ④ 対話では、決裂する可能性もあるので、その後に関係性の修復をはかるのが難しいことがある。
- ⑤ 対話では、哲学的な問答になることもあるので、難解で深刻で解決不可能なものにもなりがちである。

問七 本文で定義された「対話」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 16。

- ① 国家と国家が同じテーブルに付いて政治的な交渉をする際に手段となるのが対話である。
- ② 教室内で先生が進行役になって生徒と生徒とが行う話し合いが対話である。
- ③ 主題と目的を決めてその達成を目指して行う言語コミュニケーションが対話である。
- ④ 言葉は記号で伝達される情報なので、それらを交換するのが対話である。
- ⑤ 明瞭な言葉に基づく論理的な議論を必要十分条件とするのが対話である。
- ⑥ 自己を慰めるためにぬいぐるみに話しかける行為も対話となる。
- ⑦ 父と子が、将来について真剣に語り合うのも身近な場面での対話となる。

問八 次の(a)～(f)は、さまざまな場面で交わされた会話の記述である。それぞれのやりとりを読み、本文の内容に基づく対話の理念をあらわす事例として適切なものを①、適切でないものを②として答えなさい。解答番号は 17 ～ 22。

(a) 17

「私は、質問や意見を求めてきました。なぜ何も語らなかったのですか？」

「私何か質問しようとする、他の人が質問してしまいます。内容に疑問を持つても、先生はすぐ次に話題を移してしまいます」

「一度でもいいからそう言うて欲しかったです。授業の最終日の口頭試験をおこなっている今、初めてあなたが発言しない理由がわかりました。なぜ言ってくれなかったのですか？」

「そんなことを言ってもいいのですか？」

「もちろんです。黙っている理由こそ言っしてほしいんです。どれだけ不愉快なことであったとしても、私は相手が何を考えているのかを知りたいと考えています」

「でも、学生が意見を言うと、不快な顔を見せる先生がいます」

「大学にはいろんな先生がいます。各先生が求めていることに従うか否かはあなたの問題です。この授業では、発言することを求めています」

(b) 18

「お客様がキャンセルされる場合には、品物の保管料が発生しますので、その点ご承知おきください」

「私が注文の問い合わせをしたのは2週間前ですが、今この電話で初めて送料が5万円もかかることを知りましたので、正式に注文するかどうかはまだわかりません。考えさせてください」

「こちらからは、何度もご連絡差し上げています」

「その連絡を、私は確認できていません」

「それはそちらの問題です」

「だとしても、注文できるかがわからないので、考えさせてください」

「なるほど、わかりました。キャンセルする場合には、保管料が発生しますので、その点ご承知おきください」

「今、この電話では承知しかねます」

「なぜですか？」

「送料を含めた代金が確定してから初めて契約になると思うのですが、本件はまだ契約に至っていないからです」

「なるほど。それでは、キャンセルされる場合には、保管料が発生しますので、よろしくお願いします」

「いえ、承知しかねます。申し訳ありません。」

「なぜですか？ こちらには、送信履歴も全部保存してあるんですよ」

(c) 19

「あんた私の気持わかる？」

「わかるよ」

「わかるなら言っってください。さあ、言っってください」

「……」

「それごらん下さい。言えやしないじゃないの。嘘ばかり。あんたは贅沢ぜいたくに暮して、いい加減な人だわ。わかりやしない」

「悲しいわ。私が馬鹿。あんたはもう明日帰んなさい」

「そう君のように問いつめたって、はっきり言えるもんじゃない」

「なにが言えないの。あんたそれがいけないのよ」

(d) 20

「学級委員にふさわしいと思う人の氏名と理由を書いて、提出してください。1学期と同じですよ。何か質問のある人はいますか？」

「先生、学級委員は絶対にやらないといけませんか？」

「前回のようになれば、僕はやりたくありません」

「先生、学級委員はやりたい人がやればよいと思います」

「さ、書けた人は提出してください」

「○○さんは、あとで、職員室にくるように」

(e) 21

「ただいま」

「おかえり」

「おやつなに？」

「パンケーキ」

「食べていい？」

「レンジの中にあるわよ」

「いただきます」

「どうしたら先生のような弓の達人になれるのでしょうか？」

「無心になることです。矢がひとりでに離れるまで待つていることを、学ばなければなりません」

「先生、しかしそれを待つていると、いつまでたつても矢は放たれません」

「待たなければならぬと言つたのは、誤解を招く言い方だつたかも知れません。まったくの無になる、ということがひとりで起これば、その時あなたは正しい射方ができるようになります」

「まったくの無になつたら、誰が弓を射るのでしょうか？」

「それがわかるようになれば、あなたに師匠はいらなくなるでしょう」

「故意に無心になろうとしているうちは無心になれません」

「無心になるつもりにならないで、どうしたら無心になれるのでしょうか？」

〔選択問題〕〈現代文〉か〈古文〉かの、どちらかを選択して、一方のみを答えなさい。

〔二〕〈現代文〉高浜虚子（一八七四—一九五九）の書いた次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

人生の複雑なる経験から来る深い思慮、哲学上の思索、道德の観念、すべてそれらのものは文学の基調を為すべきものであろう。しかしそれが文芸の上にかに表現されるかという事に就いて問題がある。

一時、思想小説という言葉もあつた。観念小説という言葉もあつた。作者の思想観念が顕著に出ている小説でなければ価値が無いという点から出發している小説の謂いであつたのであろうと思う。又、俳句にも同じような要求がいつの時代にも繰り返されつつあるようである。それらは皆一部の尤もな要求である。併しながら小説として又俳句としていかにそれを表現するかが問題である。

その思想小説、観念小説といわれるものを読んでみると、作者の言おうとしている思想なり観念なりが露骨に陳述されて、唯、演説されていて、読者は圧迫を感じながら、緊張を強いられながら、その説を聞いているような感じである。少しもそこに文芸品としての潤いを感じが無い。俳句も亦同じことである。

私は壁につかえる、という言葉でそれを現わしておる。それは小説を読んでいるうちにすぐその作者の露骨な主観にぶつかるとをいうのである。それはその思想の宣伝ならばそれでよいのであるが、併し小説という一つの芸術品であつてみればそれではいけない。思想のままなまじい醜い壁にぶつかつて興味が忽ち **A** 然としてしまうのでは駄目だ。俳句もそうである。その俳句を一誦してみると忽ち作者の露骨な思想にぶつかつてしまつて、芸術品としての潤いは少しもなく、そのとげとげしい思想が感興を壊してしまふ。殊に俳句は文字の少ないものであるから唯理屈を述べたものになつてしまふ。

俳句はそんなものでなくつて今少し潤いのあるべきものである。思想の壁ではなくして感情の林であるべきである。

ここに於いて描写というものが必要になつて来る。説明ということではなくつて描写ということが必要になつて来る。自然界人事界の描写をして、その中に自ら作者の心を述べる、そういうものでありたいのである。剥き出しに説明をされるとそれに対して感服するよりも寧ろ反感が起こる。自然界人事界の諸々の現象を描いてそれによつて知らず識らずの間に作者の志を知るといふようなものになると、雨が土に浸透するように心に沁みこんでいつか作者と同じ所に立つているようになる。

作者が読者をいざなつていつの間にか自分の所に立たしておるといふことは文芸の目的ではなからうか。自分は斯う議論した、読者はどう議論するか、というのは文芸ではない。自分はこう感じた、斯ういう天地を見た、読者はどう感じるか、どういう天地を見るかというのが文芸の目的であらう。

作者に依つてその志に高下深淺はある。併しそれら諸々の作品が文芸品を作り出そうとするならば、そこに叙述という事の必要が起こつて来る。叙写(きょしや)という事の必要が起こつて来る。作者の観た天地を描き出す必要が起こつて来る。

自然自然その境地に連れられてゆく。文芸はその描写が必要なのである。一見したところでは、作者の思想は隠れて見えないが、しかし事実の描写によつていつの間にか引きずられて来ている。これが文芸の天地であろう。

説明でなくつて描写である。感情の洗練されていない人は、此の作者の描いた描写の中からその志を汲み取ることがむづかしいかも知れん。主観の暴露しておる作品にまず飛びつく読者があるようである。そういう人は、作者の意図がすぐ説明によつて了解されることを喜ぶものである。私はそういう人にはくみさない。

客観写生ということの必要が起こつて来る。主観というのは、一念三千の謂いである。客観というのは諸法実相(しよほふじつさう)の謂いである。もろもろの法は千変万化摩訶不思議である。これを描写しようとしても容易ではない。併しながら作者の感じたところの客観を写すことは出来る。人々によつて違う客観の天地がある、作者はその作者が見た客観の天地を描く。これが即ち客観写生である。

客観写生ということは、客観を観る目を養い、感ずる心を養い、且つ描写表現する技を練ることである。客観を見る目、感ずる心、そうしてそれを描写する技、それらを年を重ねて習練し、その功を積むならば、その客観は柔軟なる粘土の如く作者の手に従つて形を成し、客観の描写ということがやがて作者の志を陳べることになり、客観主観が一つになる。客観写生とは斯くの如きものである。

客観写生という事を習練した人の俳句と、客観写生をおろそかにした人の俳句とは直ちに見わけがつく。客観写生をおろそかにした人の俳句はたとい豊富な感情を裡に蔵していても、その表現されたところを見ると落莫(らくぼく)として砂を噛む如きものが多い。これは描写が拙いからである。客観写生ということによつて苦勞して来た人に較べて根底の習練が足りないことがすぐに分かる。

客観写生の技に苦心して来た人の俳句は、その心に映つた自然を描写するために、前に言つた如く、その自然は柔らかき粘土の如く作者の手の赴くままに形を成すものである。言いかえれば作者の感情のままに自然は剪定(せんてい)されるのである。自然は自由に作者の前にひざまづく。これは決して形容ではない。客観写生の妙技である。

絵画にしても彫刻にしても先ずはじめは写生ということである。写生を習練して漸くその道に入る、その技術が或る点に達した後もなお写生ということは大なることである。俳句も亦写生という事を手始めにしてその道に入り、年を経てもなお怠ることなく励むことによつて表現の自由を獲得することになる。いかにその心が深くとも表現の自由が欠けては無為に終わる。心の深さと表現の自由ということは相俟つて全きを得る。客観写生ということは浅薄な議論のように考えている人が多い。併し自然を軽蔑する人に大思想は生まれえない。大自然を知ることが深いほど作者の心も亦深くなつて来るわけである。自然を外(ほか)にして何の心ぞや。

(高浜虚子「俳句への道」による)

(注1) 人事界……人間の世界のこと。

(注2) 叙写……本文で、このあとに説明される「客観写生」に同じ。

(注3) 一念三千……仏教用語。人間の日常的な心の動きのなかに、三千という数に表現された全宇宙の現象がそなわっていること。

(注4) 諸法実相……仏教用語。現象としてのあらゆる存在の背後にある、ありのままの真実のすがたのこと。

問一 空欄 A に入る漢字として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 23。

- ① 陶 ② 索 ③ 漫 ④ 翻 ⑤ 漠

問二 傍線部 (ア) 「思想の壁ではなくして感情の林であるべきである」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 24。

- ① 俳句は、作者の思想や観念を読者に直接ぶつけるものであつてはならない。作者によって描写された自然や人事を味わうことで、気づかないうちに読者が作者の境地に導かれるようなものでなければならぬということ。
- ② 俳句で、思想小説や観念小説のように作者の考えを表そうとすると、必ず壁にぶつかつてうまくいかない。自然や人事を描いてあれば、読者はそこに表れた作者の心情にひたり、求めていた安らぎを得られるということ。
- ③ 文芸作品に作者の主観が露骨に表れていると、読者は壁に閉じこめられたような圧迫感を感じる。俳句は、作者が経験した自然現象を描いて読者に追体験させることで、読者を自然界に誘い込ませなければならないということ。
- ④ 文字数の少ない俳句で作者の思想を表そうとすると、どうしても情感の欠けたものになり、読者に生硬さを感じさせる。作者の感情を吐露し、それが読者の心にも浸透するようにしていくのが俳句の役割であるということ。
- ⑤ 小説も俳句も同じく芸術であり、作者の思想が直接的に表されていると読者の興味がそがれ、壁にぶつかつたようになって受け入れられない。俳句は自然や人事を描写して読者の心をつかまなければならないということ。

問三 傍線部(イ)「説明でなくって描写である」とあるが、「説明」と「描写」はどのようなものか。その説明として最も適切なものを、それ
ぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は、「説明」が 25・「描写」が 26。

- ① 作者の思想を詳述し、作者がそれを書いた理由について読者に考えさせるような表現。
- ② 作者が客観視した自然を余すところなく描きだし、読者に新たな知見を与えるような表現。
- ③ 作者の思想や主観をあからさまに示し、作者がそれを書いた意図も一読してわかるような表現。
- ④ 客観性にもとづいて写しとった自然現象を提示し、読者に自然の偉大さを感じさせるような表現。
- ⑤ 作者が経験し感じとった現象を写しだし、読者を作者の境地に導くような表現。
- ⑥ 作者の主観的な感じ方を明かし、そのことで読者の共感と理解を得るような表現。

問四 傍線部(ウ)「表現の自由を獲得することになる」とあるが、「表現の自由」とはどのようなものか。その説明として最も適切なものを、
次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 27。

- ① たとえば自然を描くときに、自分の心が感じたままに写しとる技術を、長年の習練によって身につけることができる。筆者は、自分の感性に従って自然を造形的に表現する技術のことを「表現の自由」と呼んだ。
- ② 絵画や彫刻で写生がすべての基礎となるように、俳句でも「客観写生」の技術を身につけ、磨きつづけなければならない。筆者は、表現対象を客観視して、ありのままに描く技術のことを「表現の自由」と呼んだ。
- ③ 俳句の表現対象である自然を客観視し深く知ること、作者の心も深まっていく。筆者は、深まった心が長年の習練を経た写生の技術と結び付き、何ものにもとられない表現を獲得することを「表現の自由」と呼んだ。
- ④ はじめは動かしがたく、変形することはできないと思われた自然の姿も、描写の技術を身につけることで、粘土のように自由に造形できるようになる。そうした修行の末に得られた境地を「表現の自由」と呼んだ。
- ⑤ どれほど長い時間と労力をかけて習得された表現技術であっても、深い心がともなわなければ味気ない作品しか生まれない。筆者は、技術と心によって出現する文芸の新天地のことを「表現の自由」と呼んだ。

問五 この文章の特徴として適切でないものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし、解答順は問わない。解答番号は 29。

- ① 「なまなましい」と「とげとげしい」のように対になる語句を用いることで、文章にリズムが生まれている。
- ② 「主観」と「客観」のような対義語を組み合わせた逆説的な表現で、抽象的な芸術観を伝えようとしている。
- ③ 辞書的な意味に沿ったキーワードで、個性的な文芸観を一般化して分かりやすく伝えようとしている。
- ④ 短文を重ねた歯切れのよい文体で、テンポよく読み進められる。
- ⑤ 「自然を外にして何の心ぞや」といった漢文訓読体の文を多用して、荘重な雰囲気を出している。
- ⑥ 「粘土の如く」のような比喻を用いて、創作のありかたを読者にイメージさせようとしている。

問六 この文章を書いた高浜虚子が師事した俳人で、写実を唱えて俳句を改革しようとした人物はどれか。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 30。

- ① 斎藤茂吉
- ② 飯田蛇笏
- ③ 河東碧梧桐
- ④ 若山牧水
- ⑤ 正岡子規

〔二〕〈古文〉高師直は、塩治判官高貞の妻に恋慕し、懇意にしていた女房に恋文を託すものの返事さえもらえない。次の文章を読み、後の

問いに答えなさい。

かかるところに薬師寺次郎左衛門公義(注1)、所用の事有りて、ふとさし出でたり。師直かたはらへ招いて、「ここに文をやれども、取つても見ず、けしからぬ程に気色けしきつれなき女房のありけるをば、いかがすべき」とうち笑ひければ、公義「人皆岩木ならねば、いかなる女房も、慕ふに靡なみかぬ者や候ふア。今一度御文を遣はされて御覧候へ」とて、師直に代はつて文を書きけるが、なかなか言葉はなくて、

(イ)返すさへ手や触れけんと思ふにぞわが文ながらうちも置かれず

押し返して、なかだちこの文を持ちて行きたるに、女房いかが思ひけん、歌を見て願うちあかめ、袖に入れて立ちけるを、なかだちさてはたよりあしからずと、袖をひかへて、「さて御返事はいかに」と申しければ、「重きが上の小夜衣まよころも」とばかり言ひ捨てて、内へ紛れ入りぬ。暫しばしくあれば、使ひ急ぎ帰つて、「かくこそ候ひつれ」と語るに、師直うれしげにうち案じて、やがて薬師寺を呼び寄せ、「この女房の返事に、『重きが上の小夜衣』と言ひ捨てて立たれけるとなかだちの申すは、衣・小袖をととのへて送れとにや。その事ならば、いかなる装束なりともしたてんずるに、いと安かるべし。これは何と言ふ心ぞ」と問はれければ、公義「いやこれはさやうの心にては候はず、新古今(注2)の十戒の歌に、

(オ)さなきだに重きが上の小夜衣わがつまならぬつまな重ねぞ

と言ふ歌の心を以つて、人目ばかりを憚はばり候ふものぞとこそ覚えて候へ」と歌の心を釈しければ、師直大きに悦んで、「ああ御辺は弓筋ゆみぢの道のみならず、歌道にさへ無双の達者なりけり。いで引出物ひきだすものせん」とて、金作りの丸鞘まるざやの太刀一振り、手づから取り出だして薬師寺にこそ引かれけれ。

〔太平記〕による

(注1) 薬師寺次郎左衛門公義……高師直の家臣で武藏国等の守護代を務めた。歌人としても知られる。

(注2) 新古今の十戒の歌に……『新古今和歌集』巻二十「釈教歌」中に寂然法師の「さらぬだに重きが上に小夜衣わがつまならぬつまな重ねぞ」の歌が見える。

なお歌中の「つま」の語には、夫婦や恋人が互いを呼ぶ妻・夫と、着物の襟先から下の縁の部分や裾の左右両端の部分指す棧たかとが掛けられている。

(注3) 金作りの丸鞘の太刀……戦闘に携帯しやすいように丸く削った黄金作りの堅固な鞘の太刀。

問一 空欄 に入る最も適切な語を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① なり
- ② らめ
- ③ べき
- ④ ざれ
- ⑤ ける

問二 傍線部(イ)「返すさへ手や触れけんと思ふにぞわが文ながらうちも置かれず」の歌は公義が師直に代わって詠んだものである。この歌にこめられた心情として最も適切なものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 女房が自分の手が触れたので師直に返したくないと思うのであれば、この手紙はそちらで捨てるなり、好きにしてくれて構わない。
- ② 師直の手紙などは畏れ多くて女房は手に取ることさえためらうから、せつかく書いた手紙も出さずに手もとに留め置くよりない。
- ③ 女房からどのような素晴らしい返歌が来るかと思うと、師直は遣わすこの文の歌の出来が不安で隠れたいような思いだ。
- ④ 女房が受け取らずにこの手紙が戻ってきたとしても、その手に触れただろうと想像するだけでも責められる。
- ⑤ 師直の手に触れた手紙だと思われようが、代筆してもらった手紙なので、どうか捨て置かず読んでみて欲しい。

問三 傍線部(ウ)「言ひ捨て」・(エ)「したてんずる」の主語を、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は、(ウ)は

・(エ)は 。

- ① 高師直
- ② 塩治高貞
- ③ 高貞の妻
- ④ 薬師寺公義
- ⑤ なかだち・使ひ(仲介者)

問四 本話における傍線部(オ)「さなきだに重きが上の小夜衣わがつまならぬつまな重ねぞ」の歌の説明として、最も適切なものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 35。

- ① ただでさえ女性と関係を持つことを私は戒めているのに、仏罰に当たるような重い罪をこれ以上重ねるべきではないと、師直を改心させようという女房の強い使命感が託された歌である。
- ② 夫のいる女房にさらに別の男との関係を持つように迫り、衣に更に重い衣を重ねるような負担を掛けてくる師直などは、たとえ恋仲になつたとしてもこの先は良い関係が続くまいと、思いやりの足らなさを非難する気持ちが見された歌である。
- ③ 衣の棲を重ねることに掛け、添い遂げる身のある者が他の人と関係を持って良いはずはないと、到底、寄せられた思いには応じられないということが示唆された歌である。
- ④ さほど寒くもない夜に重い衣を更に重ねるように掛けてくるような、相手の立場を思いやれないような師直に、どうして魅力を感じたら良いのだろうか、異性への言動を見直すように諭した歌である。
- ⑤ 師直には既に大切にする妻がいるのであるから、その妻の衣の棲に、女房の衣の棲を重ねるような三角関係を求めるとは、あまりに破廉恥な申し出ではないかと、師直へ抗議する思いがこめられた歌である。

問五 この場面における高師直の人物像として最も適切なものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 36。

- ① 恋い慕った女房の心中を思いやる優しい武者
- ② 金に糸目をつけず周りの人をさげすむ無礼者
- ③ 歌人の薬師寺公義を崇拜する風雅な優男
- ④ 塩治高貞の妻に横恋慕する教養もない無骨な男
- ⑤ 仲介者の嘘の報告を見抜けなかった愚か者

問六 『太平記』と同じジャンルの作品として最も適切なものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 『古今和歌集』
- ② 『古今著聞集』
- ③ 『保元物語』
- ④ 『うつほ物語』
- ⑤ 『雨月物語』